

## なからぎ

175号

2006年4月

## ブラリと入れる場所

附属図書館長 野間正二

図書館は、すでによく利用している人にとっては、説明するまでもなく、大学生活のなかで最高の場所のひとつです。

でも、ほとんど図書館に入らない人にとっては、図書館はとくべつ魅力的な場所ではないはずです。府立大学の図書館には、とくべつ豪華なラウンジや内装がないことも、そのひとつの原因かもしれません。しかし、図書館のほんとうの魅力はそんなところにはありません。図書館の魅力は、本を開いて読みはじめたときに、初めて立ちあらわれてくるのです。

図書館につまんでいる本は、たんなる過去の記録ではないのです。ひからびた遺物ではないのです。時代おくれの色あせた衣裳でもないのです。図書館の本は、いわば「眠れる森の美女」なのです。あなたが近づいてキスをすれば、そのキスに応じて、たちどころに命を吹きかえますのです。あなたを待って、じっと書架で眠っていたのです。あなたが読みはじめると、生きいきと反応してくれるのです。そしておそらく、どんな美女／美男よりも長くつづく喜びを与えてくれるのです。

あなたの熱い血と生きた思索とが、本にふたたび生命を与えています。そして、その生命を与えられた本が、あなたの深奥に刺激を与え、ふかい喜びと人間性をあなたにもたらすのです。

こういうすばらしい循環を、大学まで図書館とあまり縁のなかった人にも知ってもらいたいのです。こういう経験を知らずに大学から卒業してゆくのは、あまりにももったいないし、残念だと思っています。

だから、これから二年間、図書館長をつとめることになったのですが、わたしの在任中に、府立大学の図書館をこれまで以上に「ブラリと入れる場所」にしたい。というか、「ブラリと入れる場所」への道筋をつけることができればいいなと思っています。図書館は英語ではライブラリなんだから。

(のま しょうじ：文学部教授)

## 読書で、鍛える

図書館運営委員 井上 雅好

書棚を見廻して、そこにある何冊かの本を取り出し、改めて読み直すことを毎年の夏の「楽しみ」の一つにしている。読み物の種類は、いろいろで、テーマ別のシリーズ、著者別のシリーズ、全く何の脈絡もないものなど、その時々気分によって変化する。その中で、新たな筋道や解釈を見いだして興奮したり、あまりの激しさや一途さに刺激されて発奮したり、時には、心穏やかな雰囲気にも包まれたりする。いずれの場合も、日常の活動とは多少異なる状況や雰囲気自分に誘い込み、自分なりに解釈し、考え、また、悩んだりもする。そのため、楽しいことではあるものの、この「楽しみ」は疲れるものでもある。しかし、その都度体験する疲れは大変に心地よいものであり、繰り返しこの疲れを重ねている。また、この「楽しみ」を今まで続けてきたことは、読書によって他の人の考え方や主張を知ることを楽しんできたとともに、自分の考えや思考方法を確認したり再検討したりすることを楽しんできたものかとも思っている。

今回、本との出会い、感銘を受けた本……の紹介依頼があった。現在、多様な分野で多数の書籍が出版されている。しかしながら、それらの中にのめり込んでゆけるものをまだ見付けていない。そのため、出版年は多少古くなるが、夏の「楽しみ」の中で何回となく繰り返し読んでいる本の中から、比較的一般的な内容であると思われるものを数冊紹介したい。それらの内容はいずれも、今なお新鮮で、我々が考えるべき多くの課題を提示・啓蒙している

点で、今日的であると言える。新学年を迎え、新たな事柄に挑戦する中で、いろいろな課題について考える機会の設定に役立てば幸いである。

岡 潔著「春宵十話」毎日新聞社(1963)は、人の情感の豊かさと大切さを示してくれるものであり、正座して、また時には、寝ころびながら何回も楽しませてもらっている。その「はしがき」の一部を引用しておきたい。

『人の中心は情緒である。情緒には民族の違いによっていろいろな色調のものがある。たとえば春の野にさまざまな色どりの草花があるようなものである。……』

私は、人には表現法が一つあればよいと思っている。それで、もし何事もなかったならば、私は私の日本の情緒を黙々とフランス語で論文に書き続ける以外、何もしなかったであろう。私は数学なんかをして人類にどういう利益があるのだと問う人に対しては、スマイルはただスマイルのように咲けばよいのであって、そのことが春の野にどのような影響があるとなかろうと、スマイルのあずかり知らないことだと答えて来た。

その私が急に少しお話ししようと思いついたのは、近ごろのこのくにのありさまがひどく心配になって、とうてい話しかけずにはいられなくなったからである。……』

川端康成著「美の存在と発見」毎日新聞社(1969)は、ハワイ大学アジア太平洋言語学部公開講義POP (Professor of Professors) Programでの講義原稿を製本したもので、ガラス

の Copp 朝日にきらめく美しさの発見と感得から始まり、俳句・短歌・詩さらには「源氏物語」や「枕草子」での美の発見や創造に話は続いてゆく。文学的素養の乏しい小生には、記述されている内容を具体的に確認したり、正確に理解することは困難なものの、最初に読んだ時の印象の鮮烈さと話の展開の見事さに魅せられて、繰り返し読み続けている。

バートランド・ラッセル著、津田元一郎訳「宗教から科学へ」荒地出版社 (1970,9版) は、クリスチャンでもなく、思想や思想史を特に勉強したこともない小生が、科学の進展や技術の展開あるいはそれらの歴史的経過についてふっと考える時に、気になって手にする本の一つである。しかし、何回読んでもその内容の多くは理解の範囲外にあり、未だ四苦八苦しながら読んでるのが現状である。それでもこの本を読むのを止めようとは思わない。そうさせるこの本の魅力の一部を、本文の一部を引用して示しておきたい。

『今までのところで、われわれは、神学者と科学者との間で過去四世紀の間になされた注目に値する闘争の若干を、簡単に辿り、今日の科学の今日の神学に対する関係の評価しようとした。われわれは、コペルニクス以後の時代に於いて、科学と神学が意見を異にしたとき、いつも科学が勝利を示したことを見てきた。また、われわれは、魔法と医術に於けるように、実際的結果が問題になるところでは、神学が人間の生来の野蛮さを助長したのに対し、科学は被害を減少するのに役立ったことを見つけてきた。従来、科学的見地の普及は、神学的見地とは反対に、明らかに幸福を助長してきた。

だが、今やこの問題は全く新しい局面に入りつつある。そして、それは二つの理由からである。まず第一に、科学的技術が、科学的精神よりその成果に於て重要になりつつあるからであり、第二には、新しい形態の宗教がキリスト教の位置に代り、キリスト教が後悔している誤謬を繰返しつつあるからである。』

一転して、竹村健一著「虹を追った男 チェ・ゲバラの猛烈な生涯」講談社 (1969) は、文字通り猛烈に乱世のラテン・アメリカを駆け廻ったゲバラの伝記である。衆知の通り、ゲバラは、カストロとの運命的な出逢いの後、キューバ革命政府樹立の原動力となり、その後ボリビアで悲劇的な最期を迎える人物である。その強烈な生き様は、イデオロギーには関係なく、一人の人間が生き通した道筋として読む人に一種の励ましを与える。参考文献として、エルネスト・チェ・ゲバラ著 真木嘉徳訳「ゲバラ日記」三一書房 (1968) がある。

さらに、静かに読みたい伝記物として、太田雅夫編「桐生悠々自伝」伝統と現代社 (1980) がある。桐生悠々 (1873-1941) は、東京府、博文館、下野新聞などを経て、信濃毎日新聞の主筆として気骨の記事を送り続け、後に名古屋読書会を組織し、個人雑誌・名古屋読書会報告 (後の「他山の石」) を刊行して時局批判を続けたジャーナリストである。桐生悠々の生涯は、冷静に組み立てた“正論”を粘り強く主張し続ける態度で貫かれており、また、壮絶なものであったようである。参考文献として、井手孫六著「抵抗の新聞人桐生悠々」岩波新書 (1980)、桐生悠々著「畜生道の地球」中公文庫 (1989) がある。

(いのうえ まさよし：農学研究科教授)

ご紹介いただいた 8 冊の図書は、購入所蔵しました。すべて 2 階閲覧室入り口の新着図書コーナーに「なからぎ」紹介として、別置排架しています。気楽にご利用ください。

# 図書館へのいざない ~ 2006 ~

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。

さあ、新しい生活のスタート！キャンパスライフのひとつには、ぜひ図書館も加えてください。

ここでは、いくつかのポイントを説明します。詳細は、B5版の『図書館利用案内』をお読みください。入学式に配布した図書館の封筒の中に同封しています。新入生以外に必要な方は、2階閲覧室カウンターまでお申し出くだされば、お渡します。

今の図書館は重要な情報収集の場。本を借りるだけの場所ではないのです。講義、クラブ、アルバイト etc. 忙しい学生生活にこの便利な施設を活用しない手はありません。

本学で既に何年かを過ごしているにもかかわらず、まだ、一度も図書館に入ったことのない方々も、新年度になったのを機会に、ぜひ図書館デビューしてください。

## 1. 図書館サービス

### (1) 貸出

利用者区分	1~3回生	4回生・大学院生	教員 非常勤講師	研究生・職員	学外者 (シティーカレッジ履修生・ 単位互換学生・ 府立医大学生教職員)
貸出期間・冊数	2週間 6冊	2週間 6冊 1ヶ月 6冊	2週間 6冊 4ヶ月 20冊	2週間 6冊	2週間 6冊

休業中は貸出期間を延長します。また、予約が入らなければ、何度でも同じ資料を借りられます。

※ 延滞にはくれぐれもご注意下さい！延滞がある利用者は新たな貸出が受けられません。

### (2) レファレンス 利用者と資料を結びつけるための相談に応じています。

「資料が見つからない。」「資料の探し方がわからない。」「もっと資料があるのでは？」「何に自分の必要な資料が載っているのかわからない。」etc. 困った時は、図書館カウンターに遠慮なくおたずね下さい。

### (3) 相互利用サービス 本学にない資料の入手のお手伝いをします。

- ◇ 他大学への閲覧照会(詳細が大学ごとに異なります。まずは、図書館カウンターへご相談ください。)
- ◆ 学外からの図書・コピーの取り寄せ(実費が必要です。)

## 2. 図書館ホームページ

<http://www.kpu.ac.jp/toshokan/toshokan.html>

大学HPの画面左側メニューの**附属図書館**からアクセスしてください。

所蔵資料の検索はもちろん、学外へのコピーの取寄依頼(要事前パスワード登録)、電子ジャーナル(学内からのみアクセス可)、『図書館報 なからぎ』バックナンバーなど、情報もりだくさんです。





3. 資料の配架一覧 (図書館内)

2006 年 4 月現在

	2階閲覧室	1階書庫	3階書庫	東書庫 1	東書庫 2
場所	中央の階段を上がったところ	2階閲覧室の奥(2階書庫入口右手)のエレベーターで移動 学内者は出入り自由		1階ホール東側(事務室向かい) (階段向かい側) (テニスコート側) 通常は施錠(カウンターに鍵あり)	
図書の背ラベル	白地に紺枠(あるいは緑枠)	請求番号のラベル3段目が黄色	請求番号のラベル3段目が黄色	請求番号のラベル最下部に“白田文庫”と記載あり(書庫表示の黄色はなし)	
OPACの表示	開架 開架大型 参考 府大コーナー 2階書庫	1階書庫	3階書庫(文庫) 3階書庫(大型) 3階書庫(特大) 3階書庫(教科書) 3階書庫(府大資料) 沖田文庫(3階書庫)	東書庫 I 白田文庫(東書庫 I)	東書庫 II
図書	和書・洋書に分けて配架 注意! OPACの表示は全て開架だが、別置しているものもあり。 ・教職コーナー ・人権関連図書コーナー ・講談社学術文庫	人文社会科学関係の和書 (請求番号) 0~3、7~9	自然科学・産業関係の和書 (請求番号) 4~6 ・洋書・大型・文庫は全分野 ・四庫全書 ・中国近代史料叢刊 正・續	白田文庫 (白田氏寄贈の英米文学関係資料) 壁面に和洋別に一連番号順に配架 洋…北側から和…(洋の後、東側)	
雑誌・新聞等	(閲覧室内) ・利用の多い雑誌 本年分 ・今月分の新聞 ・朝日新聞縮刷版の過去1年分  (北側の集密書架) ・一部和雑誌のバックナンバー ・過去1年分の新聞  ・洋雑誌の1976年発行以降のバックナンバー(例外もあり)		・新聞の縮刷版(朝日)	・多くの和雑誌のバックナンバー (ただし、2階に配架されているものもあり。要 OPAC 参照) ・1975年以前の洋雑誌 ・統計書 (京都府統計書等、図書扱いのものは、それぞれ分類へ)	・官報 ・京都府公報 ・出版社等の PR 誌 (例:『図書』「ちくま」など) ・新聞の縮刷版 (京都・日経) ・東洋史、西洋文化史の研究室に置けない雑誌 ・昆虫、果樹、土壌、植物、生物、食物関連の雑誌の一部(和・洋とも) ・洋雑誌の一部1976~90年発行分 ・ Biochemica et Biophysica Acta ・ Biopolymer ・ Journal of Biological Chemistry

※資料の検索結果には、研究室所蔵資料も出てきますのでご注意ください。

4. 設備など

◇ 3階に自習用の部屋があります。2階カウンターで、事前に申込んで利用してください。3階自習室は、自由に利用できます(荷物持込可)。

- ・個人閲覧室(一人で勉強するスペース) 4室
- ・共同研究室(15人程度までのゼミや学習会用) 2室

◆ P C

- ・OPAC(資料情報検索用) 3台 資料検索結果のみプリントアウトできます。  
(電子ジャーナルのプリントアウトには申込が必要です。)
- ・インターネットコーナー 6台

(大学のLAN経由ということ念頭に置き、自由にご利用下さい。)

※文書作成のためのPCはありません。また、持込ディスク、ソフト等の利用はできません。

◇ コピー機

2階閲覧室の事務スペース内あります。図書館が所蔵する資料を、著作権の範囲内で複写可能です(モノクロのみ/1枚10円 要申込書)。ノートや私物のコピーはできません。

5. 利用の際のマナー

◇ 館内は全館(3階自習室・各部屋含む)喫煙はもちろん、飲食もできません。ペットボトル等はバッグの中に入れてください。

◆ 2階閲覧室へは、バッグ類の持込はできません。2階階段を上がったところにロッカー室がありますので、ご利用下さい。なお、貴重品の管理は、各自で十分気をつけていただきますようお願いいたします。

◇ 2階閲覧室に入室の際、持ち込み図書に、冊数に応じた札をはさんでください。図書館の本と区別するために必要です。

◆ 館内では静かにしてください。携帯電話は音が出ないようにし、通話をご遠慮ください。

◇ パソコンの持ち込みは、利用環境がありませんので、ご遠慮ください。

◆ 図書館の資料は、大切な共有財産です。丁寧に取り扱いして下さい。

# 2階閲覧室が変わりました

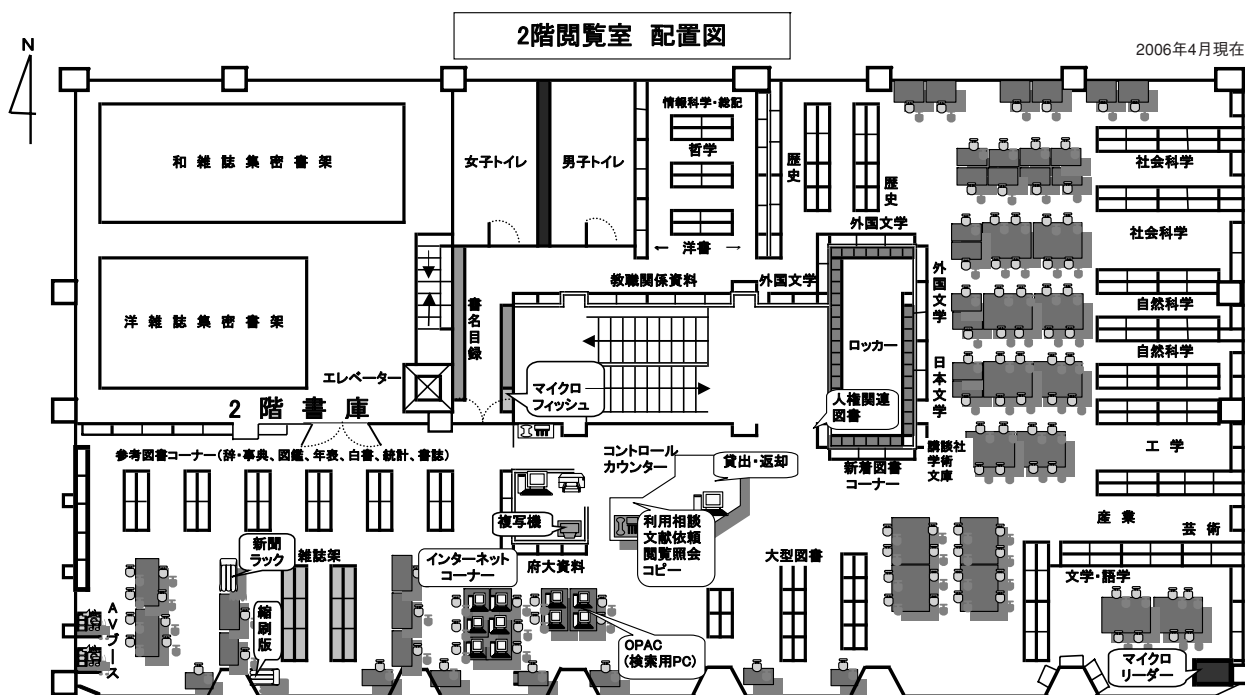
もう、お気づきですか？図書館が、変わったことを！

3月末の蔵書整理期間中に、書架増設・インターネットコーナー移設工事を行いました。それに伴って全面的な資料の移動を実施し、4月1日の新年度から、リニューアルオープンしました。

今回の注目ポイントは3点あります。

- ① 2階閲覧室に書架を増設し、開架冊数が約1万冊増えました。  
約4万冊 → 約5万冊
- ② 2箇所に分かれていた参考図書(調べ物につかう資料/辞事典類(外国語のものも含む)・白書・統計・書誌など)を2階閲覧室の西側に集め、不便を解消しました。
- ③ OPAC(検索用PC)とインターネットコーナーをカウンター周辺に集め、利用者からの検索方法等に関する質問やPCの故障に対して、職員がすぐに対応できる環境にしました。

これからも、使い易い図書館を目指して、日々進化していきたいと思えます。



## 今年も新しい備品を作っていただきました。



平成17年度「提案公募型」教育研究環境等整備推進事業を利用して、図書館内の備品を、本学文化系サークルのひとつ“森なかま”のグリーンボランティアの皆さんに作っていただきました。この事業を活用するのは、16年度に引き続き2度目。今回お願いしたのは、学生希望図書用の用紙を投函する木製ポストの足(ポスト本体は16年度の本事業で作成)、可動式のミニ掲示板3個、図書館1階ホールの大きな掲示板。

今年は、一度納品してもらった物を「もうちょっとここを直して。」とお願いするひとコマもありました。そんなこちらの希望を気持ちよく聞き入れて下さったおかげで、完成品は、一手間も二手間もかけた味のあるものが出来上がってきました。

労をとってくれた学生の皆さん、ありがとうございました。

## 「図書館積極的活用方法」 ～私の体験を通して～

人間環境科学研究科 生活環境科学専攻  
博士後期課程 松田法子  
(2006年3月 修了)

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。大学という充実した学問の場へのご進学と、新たな生活に、期待で胸をふくらませておられることでしょう。

さて、大学生活において、大学附属図書館の存在は欠かせません。授業レポートの作成をはじめ、あらゆる調べものに活用できるのが附属図書館です。1 回生から 3 回生の間はもちろん、卒業研究を行う 4 回生、さらに、大学院の修士・博士課程では、その重要度と利用度はより高まります。

しかしながら、わが京都府立大学附属図書館の蔵書数や建物は、他の総合大学と比較して、決して大規模ではありません。このような条件下で、いかに附属図書館をうまく使いこなすかが、府大生の課題です。ただ、蔵書数などは他の大学に劣るとはいえ、基本的な文献は揃っていますし、何よりも、植物園の瑞々しい木々や北山の山並みを望む、閑静な下鴨の地に位置する府大図書館は、落ち着いてじっくり書籍と向き合う上で、大変素晴らしい環境を持っています。

府大図書館の上手な活用法を覚えることで、現時点での不足を補いつつ、勉強・研究活動を行うことが可能です。

まず、自分が必要とする書籍の所蔵が府大図書館になかった場合、他大学などから本を取り寄せて借り受けられる仕組みがあります（現物相互貸借制度）。この方法を使えば、全国の大学図書館および自治体図書館から書籍の入手が可能です。なお、必要な本がどこに所蔵されているのか検索するには、全国の大学等の図書館蔵書を網羅する、国立情報学研究所総合目録データベース（NACSIS Webcat、<http://webcat.nii.ac.jp/>）が便利です。

ただし、この方法で取り寄せられないものがあります。それは、雑誌です。雑誌には、論文集など、各学会誌も含まれます。しかし、この場合でも、必要な頁を先方で複写して送ってもらう、という方法で、各誌の入手が可能です（論文取り寄せ）。

以上の方法によって、府大図書館に所蔵がない書籍や雑誌の入手が可能です。

さらに、みなさんに是非知ってもらいたいのが、次の方法です。それは、「希望図書制度」です。これは、希望する書籍を、自分にかわって図書館に購入してもらうシステムです。

どんな本の購入希望を出すかは基本的に自由ですが、私の場合は、1、文献全体にわたって自分の研究に関係があり、短期間の貸借では内容をカバー仕切れないもの、2、自分の専門分野に関わるだけでなく、ほかの学生の方々にもひろく役立つと思われるもの、を主に選んで、購入希望を出していました。時には、3、新聞の書評などで興味を持った新刊書、なども、自分の専門分野にかかわらず購入希望を出していました。希望した図書の購入願いはこれまでのおおむね受理され、図書館に備えて頂きました。

この「希望図書制度」は、自分が関心のある書籍を手に入れることができるだけでなく、学生個々の多様な興味を反映して、府大図書館の蔵書が厚みを増すことにもなります。皆様には、どんどん活用して頂きたいと思います。

目の前に並ぶ豊富な文献の背表紙を眺めつつ、一冊の本を取り出してその頁をめくり、新たな知識を吸収することは楽しいものです。しかし、そのための書籍数が充分かという点、それには今少し遠いのが府大図書館の現状です。府大では、自分が何に興味を持っているのか、あるいは持ちたいと思っているのかについて、感性を研ぎ澄まし、自ら進んで書籍に出会っていくことが重要でしょう。隣接する府立総合資料館や、平安神宮近くにある府立図書館をめぐって、本を探る基礎的な力を養っておくのも、ひとつの手です。

府大図書館の職員の皆様は、学生の希望に親身になって対応して下さいますから、是非色々をお願いをしてみてください。テスト前の勉強部屋としてだけでなく、自分に知的な栄養を付ける場所として利用して下さい。

図書館という施設は、そこに完結された学問環境があるというものではありません。既存の状況を受け身で受容するのではなく、主体的に活用して頂きたいと思います。皆さんは、さらに充実した京都府立大学附属図書館の実現のうえで、大きな役割を担っています。

著者は『近代大規模温泉町の形成と温泉旅館の発展に関する史的研究—熱海・別府を事例として—』で学位（博士）を取得されました。

今年度学位を取得された方の博士論文と一緒に 2 F 閲覧室府大コーナーに配架される予定です。



### 図書館運営委員会・各ワーキンググループの報告

平成17年度第2・3回図書館運営委員会(8月10日・10月26日開催)において、現段階の図書館の課題を明らかにし、新しいサービス展開に対応するため、選書・自己評価・電子ジャーナル(継続)ワーキンググループの設置が承認された。第1回目の各ワーキングが、下記のように開かれ、来年度の方向性をさぐるべく活発に議論された。

#### 【選書ワーキンググループ】

2006年3月13日PM1:00~2:30、図書館3階、講師控室にて開催。附属図書館の選書方針、学生への教育・学習支援を中心に議論した。

図書館として、京都府立大学の教育・学習への支援を資料・情報面から行うことを基本とすることを確認した。学部生を中心とする学生に対する自主的な「学び」「しらべ」の支援を基本としつつ、多様な読書要求にも応えられるようにする。新たな試みとして、講義で紹介されている単行書レベルの参考資料の全点購入(所蔵)を目指し、平成18年度早々に着手できるようにアウンスする。また、読書離れの深刻な学生への動機付けを目的として「新・府大生にすすめる図書」や教員による「読書体験紹介図書」リストを作成し、それらを購入すると同時に、コメント記事を付して「ブックガイド」を作成することを検討する。

要望が出ている紙媒体の雑誌(『Time』『Newsweek』『ふらんす』)については、教育用を基本としつつ購入規準・範囲も含め継続検討する。図書館側は、学生の読書ニーズや図書館蔵書構成に配慮しつつ「図書館選書会議選書指針」によりながら選書する。

議論の中では、(1)「紹介参考資料(単行書レベル)の全点購入」はシラバスに明記する方向で考えられないか、(2)小説の収集はどう考えるか、(3)『コレクション作成方針』の作成も考えられないか、(4)新教育課程を経た学生にどのように対応するか、(5)テーマ選書は考えられないか、等々の意見が出された。

#### 【自己評価ワーキンググループ】

2006年3月15日AM10:30~12:00、本館合同講義棟第2会議室にて開催。ワーキング設置の問題意識として、将来的な図書館の建替えを検討しなければならないということがある。現施設は1974年竣工以来30年以上も経ち、施設全体が老朽化していること、特に視聴覚室が機能していないこと、また、書架が決定的に不足しており、収納スペースが限界に近づいていることも指摘された。院整備もなされ、院生数が増加したが、それに対応できていないとの意見もあった。

当面の課題としては以下の3点が確認された。①第三者評価で図書館も対象になるため現在の評価と将来像が必要である。②法人化の問題では、もし法人化が

決まれば、中期目標を作成し図書館のあり方、将来展望を描かなければならない。③学生の教育には、図書館機能の充実が重要で、研究室に配属されるまでは、学生の学習場所は基本的に図書館である。大学のコア、教育のコアな施設として図書館を位置づけ、幅広いサービス議論の場としてほしい。

議論の中では、(1)学部独自の図書(資料)室をどう考えるか、(2)前任教員等の資料を図書館が受けるキャパシティがない、(3)本が少ない、(4)雑誌数が少ない、(5)文献取り寄せは丁寧に取り寄せてくれる、(6)電子ジャーナルでアメリカ化学会が有用で有難い、等の意見がだされた。学内の図書館に対する共通認識を作るために「図書館ウォッチング」をしてはどうかという意見もだされた。

#### 【電子ジャーナルワーキンググループ】

2006年3月13日PM4:00~5:10、図書館3階講師控室にて開催。電子ジャーナルの基本的な考え方として、研究用雑誌の形態が電子版になったもので、その費用は研究費から手当をすることを原則とすることを確認した。費用面では図書館の図書費とは分け、流用しない。契約関係より18年度継続契約は終了しているが、早期の一定額の費用確保が必要で、全学共通教育研究経費から500万円程度の早期採択をお願いしている。

また、今年度の導入ジャーナルの経過と現状が出され、17・18年度洋雑誌(冊子体)購入比較では、2タイトル増、57タイトル減で金額にして約1200万の減となっている。電子ジャーナル導入に伴う洋雑誌購入の見直し、予算の逼迫が考えられる。継続購入雑誌では、値上り率12.8%で、高騰化傾向はまだ収まっていない。

電子ジャーナルを巡っては、(1)SpringerLinkは価格体系が変更されたので再検討の必要がある、(2)新規提案のOxford University Press Archive Collectionは導入メリットがあり、6月より利用可能なので、早期に館長が該当講座・教員に意見を聴取することなど議論された。

利用普及のために「講習会」を5月中・下旬に計画し、その後、電子ジャーナルの見直し、新規導入のアンケートを考える。新規導入候補としてEBSCOhost Academic Search Premier、新聞データベース(図書館費)を中心に夏頃に検討し、運営委員会に諮っていく。

### カレンダー

2006年4月							2006年5月							2006年6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1		1	2	3	4	5	6					1	2	3
2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10
9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17
16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24
23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	
30																				
【4/3(月)~通常貸出実施 (貸出冊数6冊以内、返却期限2週間以内)】 【~4/11(火)春休み長期貸出図書返却期限】 【4/29(土)<みどりの日>】							【5/1(月)~通常貸出実施 (貸出冊数6冊以内、返却期限2週間以内)】 【5/3(水)<憲法記念日>】【5/4(木)<国民の休日>】【5/5(金)<こどもの日>】							【6/1(木)~通常貸出実施 (貸出冊数6冊以内、返却期限2週間以内)】						
開館時間等																				
通常開館							9:00-20:00													
春期休業							- 4/11 9:00-16:45													
休館日							土・日・祝祭日													

新入生の皆さん ご入学おめでとうございます。